



近代秀歌

伊地知文庫
文庫20
304
3



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 10 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 10 lines.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a manuscript.

大宛を種信古

Handwritten text in cursive script, continuing the narrative or letter.

後附録位

Handwritten text in cursive script, possibly a postscript or a separate note.

Main body of handwritten text in cursive script on the left page, including a circled character at the top.

こねらるる約もいふるもたのびに
かゝ海にたつてはたしむ

后輔

あつては半白のたつては
秋もよき時とていふも
高砂の屋敷にたつては

清輔

あつては半白のたつては
君もよき時とていふも

あつては半白のたつては
あつては半白のたつては

基俊

あつては半白のたつては
あつては半白のたつては

先人佐

あつては半白のたつては
あつては半白のたつては

和歌口傳

和奇之重大事 付二四

第一大廻之事

抑詩賦者漢家之傳和歌者吾國之風なり
 抑乃代をりしも今も其風を承るるも
 之強し弱しは亦時を以て異なり
 世の末人少く耕しを以て生ずる者
 人の心は世に随ひて移りて
 おもひは世に随ひて移りて
 かなしき世に生るる人少く
 かなしき世に生るる人少く

おん心は世に随ひて移りて
 情あつて世に随ひて移りて
 かなしき世に生るる人少く
 かなしき世に生るる人少く

いははにけへそ ちりぬをわが よたれろつねな
 らむかのが やまけふにほ あさきむらみ
 ぬいせす

一とく人下は世に随ひて移りて
 てみ上は世に随ひて移りて

く下よ^ハ上よ^ハつぐ^ハ下^ハは^ハ入^ハ口^ハあ^ハつ^ハて^ハあ^ハら^ハふ
 なる^ハゆ^ハへ^ハる^ハこ^ハろ^ハに^ハあ^ハら^ハん^ハと^ハす^ハべ^ハし^ハる^ハも^ハあ^ハら^ハん^ハと^ハす^ハべ^ハし^ハる^ハ
^カク^クハ^ハ上^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ上^ハ下^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハ
 と^ハめ^ハ同^ハ上^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ上^ハ下^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハ
 と^ハめ^ハ同^ハ下^ハに^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ上^ハ下^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハ
 の^ハ上^ハ下^ハは^ハ上^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハ
 の^ハ上^ハ下^ハは^ハ上^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハ
 の^ハ上^ハ下^ハは^ハ上^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハ

上^ハの^ハ上^ハ下^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハ
 の^ハ上^ハ下^ハは^ハ上^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハ
 の^ハ上^ハ下^ハは^ハ上^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハと^ハつ^ハぎ^ハり^ハの^ハ下^ハの^ハ上^ハ下^ハ

以上大端の口傳

才二引括之事

引括

括

一奇を括括

元^ハ宗^ハを^ハよ^ハう^ハん^ハ時^ハの^ハ妙^ハあり^ハく^ハ人^ハを^ハ赤^ハん^ハも^ハた^ハ信^ハの^ハ括
 の^ハ由^ハより^ハ出^ハて^ハお^ハの^ハる^ハ事^ハも^ハあ^ハら^ハん^ハと^ハす^ハべ^ハし^ハる^ハ
 こと^ハも^ハあ^ハら^ハん^ハと^ハす^ハべ^ハし^ハる^ハ

あつきはせしれぬみちう

一 部をよまんとうまはんまゝに
縁の言をわらふまゝの物をもつてに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに

一 部をよまんとうまはんまゝに
縁の言をわらふまゝの物をもつてに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに

一 部をよまんとうまはんまゝに
縁の言をわらふまゝの物をもつてに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに

一 部をよまんとうまはんまゝに
縁の言をわらふまゝの物をもつてに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに

一 部をよまんとうまはんまゝに
縁の言をわらふまゝの物をもつてに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに
おしんまゝ縁の言をわらふまゝに

まゝに書きたるに
一
妙
人
今
一
一
一

海
一
一
一
一
一

引
あ
然
可
冬

新
一

三
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

下は... 4

一 縁をり... 縁をり

縁をり... 縁をり

縁をり

一 縁をり... 縁をり

縁をり... 縁をり

縁をり

一 縁をり... 縁をり

縁をり... 縁をり

縁をり... 縁をり

縁をり... 縁をり

一 縁をり... 縁をり

縁をり... 縁をり

縁をり... 縁をり

縁をり... 縁をり

縁をり... 縁をり

縁をり... 縁をり

縁をり... 縁をり

紅糸の如くおろくくお日とくきんくお糸とくま
くおおのりくきんくきんくきんくきんくきんく
お糸とくきんくきんく山とくきんく下とくきんくおの糸とく
可く秘とく

一船の大綱の後をわく舟の病をきくきんくきんく
けきんく四病の病わく四病とくきんく下とく岸樹言左
風燭の浪船四の病花の岸樹の初二字一曰
風燭の口と二四同浪船の者言才四五七言六七
口後花の毎口口初二日四言才の口と二四

目と君とんめんと五十六才四言才言の六七同は君
く母の代とくきんくきんくきんく毎口口毎口口似るわ
八病一と口心二と乱思三と欄幪四と渚崎五
と花板六と老漂七と中絶八と後悔
一同心病の口とくきんく口とくきんく

とくきんくきんくきんくきんくきんくきんく
二と乱思病名暖頭と云才一与一字才四与一字口流言と
三欄幪病名神又流言才五与一字口流言と

引くもちる本下風...
四渚嶋病七詰一字日...
引くもちる本下風...
四渚嶋病七詰一字日...
引くもちる本下風...
四渚嶋病七詰一字日...

五夜板病者

おのちを...
引くもちる本下風...
おのちを...
引くもちる本下風...
おのちを...
引くもちる本下風...

六夜漂病者

を...
引くもちる本下風...
を...
引くもちる本下風...
を...
引くもちる本下風...

七甲能病者

七又字...
引くもちる本下風...
七又字...
引くもちる本下風...
七又字...
引くもちる本下風...

八夜悔病者

八夜悔...
引くもちる本下風...
八夜悔...
引くもちる本下風...
八夜悔...
引くもちる本下風...

あつたけ 無名の巻をみるに かくれし
の 夏はの 秋の 花をよみて 又 女は
空を 舞うたると わるも かくる かくる
ぬえの ぬえの まとすの まとすの 二は ありし 又
ては ぬえの まとすの 二はと 舞うたると ありし
わんごの かくる かくる かくる かくる ありし
かくる かくる かくる かくる かくる かくる
かくる かくる かくる かくる かくる かくる
かくる かくる かくる かくる かくる かくる
かくる かくる かくる かくる かくる かくる

かくる かくる

あつたけ 無名の巻をみるに かくれし
の 夏はの 秋の 花をよみて 又 女は
空を 舞うたると わるも かくる かくる
ぬえの ぬえの まとすの まとすの 二は ありし 又
ては ぬえの まとすの 二はと 舞うたると ありし
わんごの かくる かくる かくる かくる ありし
かくる かくる かくる かくる かくる かくる
かくる かくる かくる かくる かくる かくる
かくる かくる かくる かくる かくる かくる
かくる かくる かくる かくる かくる かくる

痛くして...
又...
わ...
人...
振...
一...
長歌短歌 随筆 思ふ 想入 後歌 折句

五言 祝詞

長歌...
短歌...
祝詞...
五言...
長歌...
短歌...
祝詞...
五言...

〃 流しもの平らにきれぬき能くしつゝの流し能くし
らんぬき能くしつゝの流し能くしつゝの流し能くし
をしおのしらゝゝ能くしつゝの流し能くしつゝの流し能くし
をしつゝの流し能くしつゝの流し能くしつゝの流し能くし
つゝの流し能くし

一 流しもの平らにきれぬき能くしつゝの流し能くし
らんぬき能くしつゝの流し能くしつゝの流し能くし

つゝの流し能くし

流しもの平らにきれぬき能くしつゝの流し能くし
らんぬき能くしつゝの流し能くしつゝの流し能くし

あふらぬき せん流しつゝの流し能くし

らんぬき能くしつゝの流し能くしつゝの流し能くし

らんぬき能くしつゝの流し能くしつゝの流し能くし

らんぬき能くしつゝの流し能くしつゝの流し能くし

らんぬき能くしつゝの流し能くしつゝの流し能くし

一 混本流しつゝの流し能くしつゝの流し能くし

らんぬき能くしつゝの流し能くしつゝの流し能くし

らんぬき能くしつゝの流し能くしつゝの流し能くし

一 廻文流しつゝの流し能くしつゝの流し能くし

其辭より詠 いろは云

いふいろくろくろくはにけはほくほく入る
くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
わきまかすろくろくろくろくろくろくろくろく
つるねのろくろくろくろくろくろくろくろくろく
かみ井のろくろくろくろくろくろくろくろくろく
なまをろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
さあさきろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
急の急ろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく

いふいろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
ろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく

一 後 詠 いろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
いろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく

いろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
いろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく

一 折 句 いろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
いろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく

いろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
いろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく

又そのまゝに中絶しつゝありしにそのまゝに
くわんせとさゆとさうしつゝついでに
わさもえに日本の愛をたのむといふまゝに
一説する者 白土にゆきし文字をみるに
いふところをさういふまゝに
一説する者 毎古多人のすねてありし
秋の野よりあまのたはる世をみるも
之所也

右和歌大野粗授所寄如此設子千金輒不可

授心人者也

寫本奥書

是書隱岐法皇御記也近習之臣不遠
敷慮依致奉公御感之餘崩御之刻粗授
下此大事異深收箱底不可忽之由有勅定
着冠於拜領之入錦繡之袋安置之
尊共燒香供花無言每拜如一卷莫不濕衣
是書彼臣授為家卿為家卿授為

借大初言法可及瑞之授權德師以世瑞
授性淵之授深照之
正和四年林鐘十日依伊素大進阿滿梨之房訛深
苑毫馳鳥跡而已

授本國書云

此上此大事授為家之授為氏大納言為氏
授為世之授理達之授見性之授清深之
授大法師賴兼

以此五本具按合之抱之今者可為證也者哉
也

應永八年辛丑十月日

融覺記 範政在判

此一札從定家代之授侍也尤可為證也凡
連之人之依師所望必此也誠對殿雖悼多作
細之系書之於秘牛之此上有問友者也可秘之

永正十五年十一月朔日

右和歌之抄物賞勝院僧正之海能也之範政

之間被書宿^リ中^ノ種^ト今^ニ意^ハ所^ニ宿^リ不^レ被^レ宿^ル
不可^レ他^ニ出^ル者^也

永祿元年五月十日

通與判



